

空き家予備軍を早期発見するためのチェックポイントを専門家が公開

帰省で“実家の危険サイン”に気づく人が増加

空き家対策支援サービス「空き家あんしん相談室」を運営する **idea 株式会社**(本社: 東京都渋谷区、代表取締役: 清野秀之)は、年末年始の帰省をきっかけに“実家の危険サイン”に気づく人が増えている現状を受け、**空き家予備軍を早期発見するための「空き家はじめの3ステップチェックリスト」**を無料公開しました。

年末の帰省時は、普段は気づきにくい建物の変化が明確に見えるタイミングです。 「扉が前より閉まりにくい」「家中が以前より寒い・カビ臭い」「外壁にひびが入っている」といった“劣化の兆候”に気づく人が近年増えていると言われています。

総務省の統計でも空き家は約900万戸に達しており、建物の老朽化や管理不足をきっかけに実家が“空き家予備軍化”する家庭が増えています。こうした状況の中で、帰省中に見つけた小さな変化が、将来の大きな負担を防ぐヒントになります。

■ 帰省中に確認したい「危険サイン」

今回公開した「空き家はじめの3ステップチェックリスト」では、専門家が空き家予備軍の初期兆候として重視する項目を次の3つに整理しています。

1. 建物の歪みや外観の異変

- 扉・窓の開閉が重い
- 床の沈み、段差の発生
- 外壁のひびや剥がれ

→ 構造劣化の可能性があり、修繕コストが急上昇する前兆。

2. 湿気・水まわりの劣化

- 天井や壁にシミ
- カビ臭さの増加
- 結露が異常に多い

→ 放置すると内部腐食につながり、建物寿命を縮める原因に。

3. 敷地内の荒れや管理不全

- 雑草の繁殖
- 動物の痕跡
- ゴミの散乱

→ 周辺トラブルや行政指導の対象になり得るリスク。

これらのサインは、日常的に住んでいる家族より、久しぶりに帰省した家族のほうが気づきやすい特徴があります。

■ 危険サインに気づいた後、どうすればいいのか

危険サインを見つけても、「どこから手をつければいいか分からない」という声が多いことから、当社では「空き家はじめの3ステップチェックリスト」を推奨しています。

このチェックリストは、

- 家族で実家の状態を“共通言語”で話せる
- 親の今後(住み続ける・施設・売却)の道筋が立てやすい
- 帰省後に何をすべきか迷わなくなる

といった実務的メリットが大きい“初動ツール”です。帰省中に“何をどう話すべきか”が分からない方にとって、会話の糸口をつくり、将来の判断をスムーズにする“事前準備ツール”として役立ちます。

■ 担当者コメント(idea 株式会社 代表取締役・清野秀之)

「実家が空き家になる前には、必ず“建物のサイン”が現れます。扉の重さや壁のシミなど、日常では気づきにくい変化を帰省中に家族が指摘できることはとても重要です。小さな気づきが、大きなトラブルを防ぐ最初の一歩になります。」

■入手方法

書き込み式「空き家はじめの3ステップチェックリスト」は、以下のページから公式LINE登録で無料で取得できます。

<https://www.akiya-anshin.com/checklist>

【会社概要】

会社名:idea 株式会社

代表者:清野秀之

所在地:東京都渋谷区恵比寿南 3-1-1 いちご恵比寿グリーングラスビル6F

事業内容:空き家相談・相続支援・不動産売買サポート

URL:<https://www.i-dea.co.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

idea 株式会社

担当:清野秀之

TEL080-4005-6321

E-Mail:seino@i-dea.co.jp

URL:<https://www.i-dea.co.jp/>